

体外診断用医薬品

製造販売届出番号 | 09A2X10001000010

クラス I 細菌検査用シリーズ 薬剤感受性（一般細菌・ディスク法）キット

KB ディスク® ‘栄研’

（15℃以下）

【全般的な注意】

1. 本製品は体外診断用医薬品であり、それ以外の目的には使用できない。
2. 治療のための抗菌薬の選択は、他の検査結果や臨床症状を考慮して総合的に判断し、担当医師が行うこと。
3. 電子化された添付文書に記載された内容に従い使用すること。それ以外の方法についての保証はできない。
4. 使用する機器の取扱説明書をよく読んでから使用すること。

【形状・構造等（キットの構成）】

KB ディスク ‘栄研’ は、直径 6.35 mm の円形ろ紙に抗菌薬を含有させ、乾燥したものである。薬剤の種類はろ紙面に印刷された略号（最後の 51 枚目は斜線印刷）で表示してある。

製品一覧は別表に示したとおりである。

【使用目的】

細菌の各薬剤（別表）に対する感性及び耐性を判定する。

【測定原理】

本製品は、Kirby-Bauer 法によるディスク拡散法を測定原理としている^{1), 2)}。

この方法は、Clinical and Laboratory Standards Institute（CLSI）が実施基準を設定し、その後、改訂を重ねて現在に至っている^{3), 4)}。

【操作上の注意】

1. 測定試料の性質・採取法

- 1) 一夜培養した純培養菌を被検菌として使用する。
- 2) 寒天平板上の集落から直接被検菌液をつくる場合は、非選択培地（血液寒天培地等）から釣菌する。選択培地で培養した菌株は使用しないこと。
- 3) 被検菌液を調製する際、菌液が濃すぎるときは、滅菌したパールコア トリプトソイブイオン培地 ‘栄研’ 又は滅菌生理食塩水で調整する。

2. 妨害物質・交差反応性

- 1) 純培養菌を用いるので、雑菌汚染のない限り特に影響するものはない。
- 2) 2 種類以上の菌が含まれた被検菌を用いると、阻止円が 2 重になったり、また目的菌の薬剤感受性が測定できないことがある。

【用法・用量（操作方法）】

1. 試薬の調製方法

KB ディスク ‘栄研’ は、室内温度に十分戻してからビンから取り出し使用する。

2. 必要な器具・器材・試料等

- 1) 滅菌生理食塩水（菌液調製用）
- 2) 増殖用培地（パールコア トリプトソイブイオン培地 ‘栄研’ 等）
- 3) 感受性試験用培地（パールコア ミュラーヒントン S 寒天培地 ‘栄研’ 等）

* 4) McFarland 標準濁度 0.5 の懸濁液（標準菌濁度液 A）

- 5) その他（シャーレ、白金耳、滅菌綿棒、デイスパンサー、培養器、ノギス、ピンセット）

3. 測定（操作）法

1) 感受性試験用培地

ポアメディア ミュラーヒントン S 寒天培地、ポアメディア ミュラーヒントン S ヒツジ血液寒天培地、ポアメディア ヘモフィルステスト寒天培地（HTM）又は以下の調製した培地を使用する。

パールコア ミュラーヒントン S 寒天培地 ‘栄研’ を、使用方法に従い適量を溶解し、121℃で 15 分間滅菌した後、45～50℃に冷却して培地の厚さが 4 mm になるように分注し、平板に固める。内径 8.5 cm のシャーレでは 25 mL を分注すると、培地の厚さはほぼ 4 mm となる。

** 本培地は腸内細菌目細菌、*Pseudomonas aeruginosa*, *Acinetobacter* 属菌、*Stenotrophomonas maltophilia*, *Staphylococcus* 属菌及び *Enterococcus* 属菌に使用する。

肺炎球菌、β溶血レンサ球菌、ビリダンスレンサ球菌及び髄膜炎菌の感受性試験には滅菌、冷却したパールコア ミュラーヒントン S 寒天培地 ‘栄研’ にヒツジ脱線維素血液を 5% の割合に添加して調製した血液寒天培地を用いる。CLSI では *Haemophilus influenzae* 及び *Haemophilus parainfluenzae*、淋菌の試験には専用の培地を指定している^{3), 4)}。

(1) *H. influenzae* 及び *H. parainfluenzae* の試験：

滅菌、冷却したパールコア ミュラーヒントン S 寒天培地 ‘栄研’ に次のサプリメントを添加する。15 µg/mL β-NAD, 15 µg/mL bovine 又は porcine hematin, 5 g/L yeast extract

(2) 淋菌の試験：

滅菌、冷却した GC 培地に 1% の割合で次のサプリメントを添加する。

1.1 g L-cystine, 0.03 g guanine HCl, 0.003 g thiamine HCl, 0.013 g PABA, 0.01 g vitamin B12, 0.1 g cocarboxylase, 0.25 g NAD, 1 g adenine, 10 g L-glutamine, 100 g glucose, 0.02 g ferric nitrate, 25.9 g L-cysteine HCl

以上を精製水 1,000 mL に溶解してろ過滅菌する。

2) 菌液の調製

一夜培養した非選択寒天培地上の被検菌体を釣菌して滅菌生理食塩水又はパールコア トリプトソイブイオン培地 ‘栄研’ 等に懸濁する方法（直接法）と、一旦、被検菌体をパールコア トリプトソイブイオン培地 ‘栄研’ 等から調製した液体培地 4～5 mL に接種して 35±2℃で 2～6 時間培養した後、滅菌生理食塩水又はパールコア トリプトソイブイオン培地 ‘栄研’ で菌液濃度を調整する方法（増殖法）とがある。菌種別の菌液調製法は、CLSI に記載されている方法に従う³⁾。いずれの場合も、菌液濃度は McFarland 標準濁度 0.5 と同じ濁度に合わせる。

3) 菌液の接種

2) で調製した被検菌液を調製後 15 分以内に、1) で調製した寒天平板上に滅菌綿棒で均一に塗抹する。被検菌液に綿棒を浸した後、試験管の内壁上部に綿球を強く押しつけて数回まわし、過剰の菌液を取り除く。培地を分注、凝固させた円形シャーレでは、上記の綿棒を用いて寒天平板全面に塗抹した後、平板を 60° 回転させ再度塗抹し、更に 60° 回転させ塗抹する。

4) KB ディスクを置く

デイスパンサーを用いて、被検菌を接種した寒天平板上にディスクを置く。その際、菌液を塗抹した寒天平板は 3～5 分間静置し 15 分までの間にディスクを置く。寒天平板上に斜線で印刷されたディスクが現われたときには新しいカートリッジに交換する。デイスパンサーを用いない場合は、カートリッジからピンセット等を用いてディスクを取り出し、ディスクとディスクの間が 24 mm 以上になるように寒天平板上に置く。ディスクは平板培地上に完全に密着させること。

5) 培養

ディスクを置いた寒天平板は、ディスク設置後 15 分以内に培養器に入れ、下記に示す条件でそれぞれ培養する。

菌名	菌液調製	培養条件
腸内細菌目細菌, <i>P. aeruginosa</i>	直接法又は増殖法	35±2℃; 好気環境; 16~18 時間
<i>Acinetobacter</i> 属菌, <i>S. maltophilia</i>	直接法又は増殖法	35±2℃; 好気環境; 20~24 時間
** <i>Staphylococcus</i> 属菌	直接法	35±2℃ (MRS は 35℃ を超えると検出できない場合がある); 好気環境; 16~18 時間 (セフォキシチンの場合は 24 時間 (黄色ブドウ球菌, <i>Staphylococcus lugdunensis</i> , <i>Staphylococcus pseudintermedius</i> , <i>Staphylococcus coagulans</i> , <i>Staphylococcus schleiferi</i> を除く))
<i>Enterococcus</i> 属菌	直接法又は増殖法	35±2℃; 好気環境; 16~18 時間 (バンコマイシンの場合は 24 時間)
<i>H. influenzae</i> 及び <i>H. parainfluenzae</i>	直接法	35±2℃; 5%CO ₂ 環境; 16~18 時間
肺炎球菌, β 溶血レンサ球菌, β 溶血レンサ球菌, 髄膜炎菌	直接法	35±2℃; 5%CO ₂ 環境; 20~24 時間
淋菌	直接法	36±1℃ (37℃ を超えない); 5%CO ₂ 環境; 20~24 時間

6) 阻止円の測定

完全に菌の発育が阻止されている阻止円の直径をシャーレの裏側からノギスでミリ単位まで測定し、小数点以下は四捨五入する。その際、黒地をバックに反射光を用いて測定する。

ただし、*Enterococcus* 属菌のバンコマイシンディスクは透過光を用いて測定する。
血液寒天培地等の不透明な培地を使用した場合には、シャーレのふたを取って反射光で培地表面から測定する。

測定にあたっての注意

- サルファ剤系ディスクでは、阻止円内に薄い発育が観察されるが、これは培地中の拮抗物質によるため無視したうえで、明白な円の辺縁を測定する。
- CLSI で要求されている、専用菌株を用いての精度管理試験でディスクが正しい阻止円を示さない場合は、全ての操作手順を確認すること。

測定結果の判定法

計測した阻止円の直径を判定基準 (別表) と照合して、感性、中間、耐性と判定する。

判定基準の詳細は、CLSI のドキュメントを参照すること。

性能

1. 性能

1) 感度・正確性

日本薬局方外医薬品規格第一部その 2、一般試験法、力価試験法、II 標準曲線法に準じて力価試験を行うとき、表示量の 85~135% に対応する各薬剤を含む。

2) 同時再現性

操作方法に従い、感性及び耐性菌を含む試験菌 3 株について、感受性試験を各々 3 回ずつ行い、阻止円の直径を判定基準と照合して判定するとき、感受性菌は感性の成績を、また耐性菌は耐性の成績を示す。

2. 測定範囲

感性、中間、耐性

3. 相関性試験成績

本製品で測定した感受性試験成績と、日本化学療法学会：微量液体希釈による MIC 測定法との試験成績は相関する⁵⁾。

4. 較正用基準物質に関する情報

本製品は、アメリカン タイプ カルチュアー コレクション (ATCC) に収載されている菌株により性能を確認している。

【使用上又は取扱い上の注意】

1. 取扱い上 (危険防止) の注意

- 全ての操作は微生物の取扱いに習熟した人の指導のもとに、バイオハザード対策を実施したうえで行うこと。
- 検体 (被検菌) 及び培養物等は感染の危険があるものとして十分に注意して取り扱うこと。
- 感染を避けるため、検査時は使い捨て手袋を着用すること。
- 口によるビベッティングはしないこと。

2. 使用上の注意

- ディスクは指定の貯蔵方法で保存すること。
凍結を避けて保存すること。
- 使用期限を過ぎたディスクは使わないこと。
- ディスクは汚染しないように無菌的に取り扱うこと。
- 開封後はなるべく早く (約 2 ヶ月以内に) 使用すること。
- ディスクの吸湿、直射日光への暴露は抗菌薬の力価低下の原因となるため、注意すること。
- 使用後はデシケンサーから取り外したカートリッジを、乾燥剤の入ったデシケンターに入れて冷暗所 (15℃ 以下) に保存する。使用中のカートリッジは、カートリッジの入っているビンに戻さないこと。
- 原料の色調によって、ディスクの外観に差が見られることがあるが、性能に影響はない。

3. 廃棄上の注意

- 使用後の培地類は、オートクレーブ等で滅菌処理した後、廃棄すること。オートクレーブを使用する場合は、蒸気を吸い込まないように注意すること。
- 検体に接触した器具や廃液等は、次亜塩素酸ナトリウム溶液 (有効塩素濃度 1,000 ppm 以上、1 時間以上浸漬) 又はグルタルアルデヒド (2%, 1 時間以上浸漬) による消毒処理、あるいはオートクレーブ (121℃, 20 分以上) による滅菌処理を行うこと。ただし、付属機器についてはその取扱説明書に従うこと。
- 3) 試薬ボトルはガラス、キャップは熱可塑性エラストマー (TPE)、乾燥剤はシリカゲル、カートリッジは ABS 樹脂、栓はポリエチレン (PE)、ケースは紙を主な材質としている。
- 4) 滅菌後のシャーレや器具等は、医療廃棄物等に関する規定及び、水質汚濁防止法等の各種規制に従い、各施設の責任において処理すること。

【貯蔵方法・有効期間】

貯蔵方法: 15℃ 以下

有効期間: 別表参照

【包装単位】

51 枚×2

【主要文献】

- 1) Bauer A.W., et al.: Am. J. Clin. Pathol., 45 : 493-496, 1966.
- 2) WHO : Technical Report Series, 610 : 98-128, 1977.
- 3) Clinical and Laboratory Standards Institute : CLSI M02-14th Edition, 2024.
- 4) Clinical and Laboratory Standards Institute : CLSI M100-35th Edition, 2025.
- 5) 社内資料
KB ディスク、パールコア及びポアメディアは栄研化学株式会社の登録商標です。

【問い合わせ先】

栄研化学株式会社 お客様相談窓口
フリーダイヤル ☎0120-308-421

【製造販売業者の名称及び住所】

栄研化学株式会社
〒329-0114 栃木県下都賀郡野木町野木 143 番地

製造販売元



栄研化学株式会社

栃木県下都賀郡野木町野木 143 番地

※別表 (15℃以下製品)

系 統		販売名	KB ディスク ろ紙略号	構成試薬	成分名	薬剤含有量	製品コード	有効期間	適応菌種	判定基準： 阻止円の直径（mm）			
		KB ディスク ‘榮研’								耐性	中間	感性	
β-ラクタム系抗菌薬	ペニシリン系	ベンジルペニシリン	PC	PCG	ベンジルペニシリンカリウム	10 U	E・DF13	1年間	Staphylococcus 属菌	≦ 28	－	≧ 29	
									Enterococcus 属菌	≦ 14	－	≧ 15	
									淋菌	≦ 26	27－46	≧ 47	
									β 溶血レンサ球菌	－	－	≧ 24	
		** オキサシリン	MPI	MPIPC	オキサシリンナトリウム	1 μg(力価)	E・DF07	1年間	Staphylococcus epidermidis	≦ 17	－	≧ 18	
									** S. pseudintermedius / S. coagulans / S. schleiferi	≦ 17	－	≧ 18	
									肺炎球菌（PSSP スクリーニング用）	－	－	≧ 20	
		** アンピシリン	ABP	ABPC	アンピシリンナトリウム	10 μg(力価)	E・DF14	1年間	腸内細菌目細菌（Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く）	≦ 13	14－16	≧ 17	
									** Salmonella 属菌及び Shigella 属菌	≦ 13	14－16	≧ 17	
									Enterococcus 属菌	≦ 16	－	≧ 17	
	セフェム系 セファロス ポリン系 (注射用)		アモキシシリン	AMP	AMPC	アモキシシリン	25 μg(力価)	E・DF50	1年間	H. influenzae 及び H. parainfluenzae	≦ 18	19－21	≧ 22
									β 溶血レンサ球菌	－	－	≧ 24	
		** ビペラシリン	PIP	PIPC	ビペラシリンナトリウム	100 μg(力価)	E・DF18	1年間	腸内細菌目細菌	≦ 13	14－17	≧ 18	
									Staphylococcus 属菌 / Haemophilus 属菌	≦ 19	－	≧ 20	
		セファロチン	CET	CET	セファロチンナトリウム	30 μg(力価)	E・DF03	1年間	Acinetobacter 属菌	≦ 17	18－20	≧ 21	
									** P. aeruginosa	≦ 17	18－21	≧ 22	
		** セファゾリン	CEZ	CEZ	セファゾリンナトリウム	30 μg(力価)	E・DF21	1年間	腸内細菌目細菌（Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く）	≦ 19	20－22	≧ 23	
									単純性尿路感染症の尿検体から分離された Escherichia coli, Klebsiella pneumoniae, Proteus mirabilis	≦ 14	－	≧ 15	
		セフォチアム	CTM	CTM	塩酸セフォチアム	30 μg(力価)	E・DF33	1年間		≦ 14	15－17	≧ 18	
		** セフォペラゾン	CPZ	CPZ	セフォペラゾンナトリウム	75 μg(力価)	E・DF22	1年間	腸内細菌目細菌（Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く）	≦ 15	16－20	≧ 21	
		** セフォタキシム	CTX	CTX	セフォタキシムナトリウム	30 μg(力価)	E・DF23	1年間	腸内細菌目細菌（Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く）	≦ 22	23－25	≧ 26	
									** Salmonella 属菌及び Shigella 属菌	≦ 22	23－25	≧ 26	
									Acinetobacter 属菌	≦ 14	15－22	≧ 23	
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	－	－	≧ 26	
									淋菌	－	－	≧ 31	
									β 溶血レンサ球菌	－	－	≧ 24	
									ピリダンスレンサ球菌	≦ 25	26－27	≧ 28	
		髄膜炎菌	－	－	≧ 34								
		** セフチゾキシム	CZX	CZX	セフチゾキシムナトリウム	30 μg(力価)	E・DF34	1年間	腸内細菌目細菌（Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く）	≦ 21	22－24	≧ 25	
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	－	－	≧ 26	
									淋菌	－	－	≧ 38	
		セフメノキシム	CMX	CMX	塩酸セフメノキシム	30 μg(力価)	E・DF35	1年間		≦ 14	15－21	≧ 22	
		** セフトジジム	CAZ	CAZ	セフトジジム	30 μg(力価)	E・DF26	1年間	腸内細菌目細菌（Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く）	≦ 17	18－20	≧ 21	
									P. aeruginosa / Acinetobacter 属菌	≦ 14	15－17	≧ 18	
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	－	－	≧ 26	
** セフトリアキソン	CRX		CTR	セフトリアキソンナトリウム	30 μg(力価)	E・DF36	1年間	腸内細菌目細菌（Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く）	≦ 19	20－22	≧ 23		
								** Salmonella 属菌及び Shigella 属菌	≦ 19	20－22	≧ 23		
								Acinetobacter 属菌	≦ 13	14－20	≧ 21		
								H. influenzae 及び H. parainfluenzae	－	－	≧ 26		
								淋菌	－	－	≧ 35		
								β 溶血レンサ球菌	－	－	≧ 24		
ピリダンスレンサ球菌	≦ 24	25－26	≧ 27										
髄膜炎菌	－	－	≧ 34										
セフピロム	CPR	CPR	硫酸セフピロム	30 μg(力価)	E・DF74	1年間		≦ 14	15－17	≧ 18			
** セフェピム	CFP	CFPM	塩酸セフェピム	30 μg(力価)	E・DF84	1年間	腸内細菌目細菌（Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く）	≦ 18	SDD*： 19－24	≧ 25			
							P. aeruginosa / Acinetobacter 属菌	≦ 14	15－17	≧ 18			
							H. influenzae 及び H. parainfluenzae	－	－	≧ 26			
							淋菌	－	－	≧ 31			
							β 溶血レンサ球菌	－	－	≧ 24			
							ピリダンスレンサ球菌	≦ 21	22－23	≧ 24			
セフォゾラン	CZP	CZOP	塩酸セフォゾラン	30 μg(力価)	E・DF83	1年間		≦ 16	17－19	≧ 20			
** セフィデロコル	CFDC	CFDC	セフィデロコルトシル酸塩硫酸塩水和物	30 μg(力価)	E・DG18	1年間	** 腸内細菌目細菌（Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く）	≦ 8	9－15	≧ 16			
							P. aeruginosa	≦ 12	13－17	≧ 18			
							** Acinetobacter baumannii complex	－	－	≧ 15			
							** S. maltophilia	－	－	≧ 15			

系 統		販売名	KB ディスク ろ紙略号	構成試薬	成分名	薬剤含有量	製品コード	有効期間	適応菌種	判定基準： 阻止円の直径 (mm)		
		KB ディスク ‘榮研’								耐性	中間	感性
β-ラクタム系抗菌薬	セフェム系 セファロスポリン系 (経口用)	セファレキシン	CEX	CEX	セファレキシン	30 μg(力価)	E・DF43	1年間		≦ 14	15 - 17	≧ 18
		***セファクロル	CCL	CCL	セファクロル	30 μg(力価)	E・DF54	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く)	≦ 14	15 - 17	≧ 18
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	≦ 16	17 - 19	≧ 20
		***セフィキシム	CFI	CFIX	セフィキシム	5 μg(力価)	E・DF59	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌, Shigella 属菌及びMorganella 属菌を除く)	≦ 15	16 - 18	≧ 19
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	—	—	≧ 21
									淋菌	—	—	≧ 31
		***セフジニル	CFN	CFDN	セフジニル	5 μg(力価)	E・DF73	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く)	≦ 16	17 - 19	≧ 20
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	—	—	≧ 20
		***セフロキシム	CXM	CXM	セフロキシムナトリウム	30 μg(力価)	E・DF25	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く)	≦ 14	15 - 22	≧ 23
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	≦ 16	17 - 19	≧ 20
	セファマイシン系	***セフボドキシム	CPX	CPDX	セフボドキシムナトリウム	10 μg(力価)	E・DF75	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌, Shigella 属菌及びMorganella 属菌を除く)	≦ 17	18 - 20	≧ 21
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	—	—	≧ 21
									淋菌	—	—	≧ 29
		セフテラム	CFTM	CFTM	塩酸セフテラム	10 μg(力価)	E・DF98	1年間		≦ 12	13 - 15	≧ 16
		セフカペン	CFPN	CFPN	セフカペンナトリウム	5 μg(力価)	E・DF87	1年間		≦ 17	18 - 22	≧ 23
		セフジトレン	CDT	CDTR	セフジトレンナトリウム	5 μg(力価)	E・DF79	1年間		≦ 12	13 - 18	≧ 19
		***セフォキシチン	CFX	CFX	セフォキシチンナトリウム	30 μg(力価)	E・DF08	1年間	黄色ブドウ球菌 /S. lugdunensis	≦ 21	—	≧ 22
									***S. epidermidis	≦ 24	—	≧ 25
									***Staphylococcus 属菌 (黄色ブドウ球菌, S. lugdunensis, S. epidermidis, S. pseudintermedius, S. coagulans, S. schleiferi を除く)	≦ 24	—	≧ 25
	オキサセフェム系	***セフメタゾール	CMZ	CMZ	セフメタゾールナトリウム	30 μg(力価)	E・DF37	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く)	≦ 12	13 - 15	≧ 16
		セフミノクス	CMN	CMNX	セフミノクスナトリウム	30 μg(力価)	E・DF91	1年間		≦ 15	16 - 19	≧ 20
		***ラタモキシセフ	LOX	LMOX	ラタモキシセフアンモニウム	30 μg(力価)	E・DF24	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く)	≦ 14	15 - 22	≧ 23
	カルバペネム系	フロモキシセフ	FOX	FMOX	フロモキシセフナトリウム	30 μg(力価)	E・DF69	1年間		≦ 12	13 - 17	≧ 18
		ファロベネム	FRPM	FRPM	ファロベネムナトリウム	5 μg(力価)	E・DF88	1年間		≦ 12	13 - 15	≧ 16
		***イミベネム	IPM	IPM	イミベネム	10 μg(力価)	E・DF55	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く)	≦ 19	20 - 22	≧ 23
									*** Salmonella 属菌及び Shigella 属菌	≦ 19	20 - 22	≧ 23
									P. aeruginosa	≦ 15	16 - 18	≧ 19
									Acinetobacter 属菌	≦ 18	19 - 21	≧ 22
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	—	—	≧ 16
		***メロベネム	MPM	MEPM	メロベネム三水和物	10 μg(力価)	E・DF85	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く)	≦ 19	20 - 22	≧ 23
									*** Salmonella 属菌及び Shigella 属菌	≦ 19	20 - 22	≧ 23
									P. aeruginosa	≦ 15	16 - 18	≧ 19
									Acinetobacter 属菌	≦ 14	15 - 17	≧ 18
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	—	—	≧ 20
									髄膜炎菌	—	—	≧ 30
		ビアベネム	BIPM	BIPM	ビアベネム	10 μg(力価)	E・DG05	1年間		≦ 14	15 - 19	≧ 20
		***ドリベネム	DRPM	DRPM	ドリベネム水和物	10 μg(力価)	E・DG11	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く)	≦ 19	20 - 22	≧ 23
									P. aeruginosa	≦ 15	16 - 18	≧ 19
									Acinetobacter 属菌	≦ 14	15 - 17	≧ 18
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	—	—	≧ 16
	モノバクタム系	***アズトレオナム	AZT	AZT	アズトレオナム	30 μg(力価)	E・DF38	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く)	≦ 17	18 - 20	≧ 21
									P. aeruginosa	≦ 15	16 - 21	≧ 22
合 剤		***クラブラン酸・アモキシシリン	ACV	CVA/ AMPC	クラブラン酸カリウム	10 μg(力価)	E・DF31	1年間	H. influenzae 及び H. parainfluenzae	—	—	≧ 26
					アモキシシリン	20 μg(力価)			腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く)	≦ 13	14 - 17	≧ 18
		***スルバクタム・アンピシリン	S/A	SBT/ ABPC	スルバクタムナトリウム	10 μg(力価)	E・DF65	1年間	腸内細菌目細菌 (Salmonella 属菌及び Shigella 属菌を除く)	≦ 11	12 - 14	≧ 15
					アンピシリンナトリウム	10 μg(力価)			***Acinetobacter 属菌	≦ 16	17 - 21	≧ 22
									H. influenzae 及び H. parainfluenzae	≦ 19	—	≧ 20

系 統		販売名	KB ディスク ろ紙略号	構成試薬	成分名	薬剤含有量	製品コード	有効期間	適応菌種	判定基準： 阻止円の直径 (mm)		
		KB ディスク ‘榮研’								耐性	中間	感性
β-ラクタム系抗菌薬	合 剤	** タゾバクタム・ピペラシリン	T/P	TAZ/ PIPC	タゾバクタム	10 µg(力価)	E-DG03	1年間	** 腸内細菌目細菌 (<i>Salmonella</i> 属菌及び <i>Shigella</i> 属菌を除く)	≤ 20	SDD*: 21 - 24	≥ 25
									<i>Acinetobacter</i> 属菌	≤ 17	18 - 20	≥ 21
					ピペラシリンナトリウム	100 µg(力価)			** <i>P. aeruginosa</i>	≤ 17	18 - 21	≥ 22
		** タゾバクタム・セフトロザン	T/C	TAZ/ CTLZ	タゾバクタム	10 µg(力価)	E-DG17	1年間	** 腸内細菌目細菌 (<i>Salmonella</i> 属菌及び <i>Shigella</i> 属菌を除く)	≤ 18	19 - 21	≥ 22
					セフトロザン硫酸塩	30 µg(力価)			<i>P. aeruginosa</i>	≤ 16	17 - 20	≥ 21
					スルバクタム・セフォペラゾン					≤ 15	16 - 20	≥ 21
オキサゾリジノン系		** リネゾリド	LZD	LZD	リネゾリド	30 µg	E-DG04	1年間	** <i>Staphylococcus</i> 属菌	≤ 22	23 - 25	≥ 26
									<i>Enterococcus</i> 属菌	≤ 20	21 - 22	≥ 23
									肺炎球菌 / β 溶血レンサ球菌 / ビリダンスレンサ球菌	—	—	≥ 21
そ の 他		ホスホマイシン	FOM	FOM	ホスホマイシンナトリウム	50 µg(力価)	E-DF48	1年間		≤ 11	12 - 14	≥ 15
		ムピロシン	MUP	MUP	ムピロシン	5 µg(力価)	E-DG01	1年間		≤ 13	—	≥ 14

・構成試薬名は、日本化学療法学会の略号と同じである。

・薬剤の系統は、日本化学療法学会に準じた分類である。

**・判定基準は、CLSI Document M100-35th Edition及びその他の文献を参考に作成している。

※ SDD：susceptible-dose dependent（用量依存的感性）